

氏 名	佐藤 千登勢 教授
こんな研究 をしています	20 世紀初頭のロシア・アヴァンギャルド芸術を専門としています。とりわけ、ロシア・フォルマリストの芸術理論、文学作品、映画作品を中心に論文や本をまとめてきました。現在は、ロシア(旧ソ連諸国を含む)、中・東欧諸国の映画を中心に作品分析を行っています。
こんな成果 を挙げています	・『DVD で愉しむロシアの映画』(東洋書店／ユーラシアブックレット、2005) ・『シクロフスキイ 規範の破壊者』(南雲堂フェニックス、2006) ・『映画に学ぶロシア語: 台詞のある風景』(東洋書店、2009) (・『映画に学ぶロシア語』増補改訂版、教育評論社、[予定]) ・『チェブラーシカ』(東洋書店／ユーラシアブックレット、2010) ・「幾何学的フォルムの可能性: ヴィクトル・シクロフスキイの場合」、貝澤哉、野中進、中村唯史 編著 『再考 ロシア・フォルマリズム』所収 (せりか書房、2012) ・「良心の旋律: ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ」、法政大学国際文化学部編『国境を超えるヒューマニズム』所収(法政大学出版局、2013) ・「ロシア・東欧の映画人」17 項目の概説、『岩波世界人名大辞典』二分冊(岩波書店、2013) ・「文芸映画」の項目概説、『ロシア文化事典』(丸善出版株式会社、2019) ・「映画『貴族の巣』に刻まれたウサーヂバ表象の一断面」(研究成果報告書『近代ロシア文学現出の舞台: ロシア文学史における貴族屋敷(ウサーヂバ)の意義』: 研究代表者 坂内徳明、一橋大学、2022) ・翻訳: タチヤナ・コトヴィチ『ロシア・アヴァンギャルド小百科』桑野隆 監訳(水声社、2008) のうち「アヴァンギャルド」「形式主義学派」「未来主義」など 51 項目
ほかに、こんな ジャンルに関 心をもってい ます	・映画学 ・映像分析 ・文学作品分析 ・抑圧と被抑圧の諸相
こんな授業 を行なってい ます	「多文化芸術論Ⅰ」にて、旧ソ連諸国・ロシア、チェコ、ポーランド、ハンガリーの映画作品を対象として、国家のイデオロギーと芸術の関係について、また芸術の審美的要素について概観し、院生のみなさんと作品の一部を鑑賞しながら意見を交換する授業を行なっています。翌週までに、議論点や自身の見解を簡潔にまとめたリアクションペーパーを提出してもらいます。
学会や社会 でこんな活 動をしています	・日本ロシア文学会の倫理委員会委員長を務めています。 ・慶應義塾大学通信教育部教科書『ロシア文学』金田一真澄 編著(2007 初版第1刷)の分担執筆。 ・『ロシア NIS 調査月報』(一般社団法人ロシア NIS 貿易会発行)にロシア映画のコラムを連載していました(2014 年 12 月号～2020 年 8 月号)。 ・放送大学東京多摩学習センターにてロシア映画の面接講義を行っています。